

「呼吸器が不自由な患者さんを支える臨床工学技士の呼吸療法」

現代の医療機器は高度化・複雑化しており、医療機器を使いこなすには様々な機種の特徴や機能を分かった上で使わなければ質の良い治療と安全な医療は実現できません。

皆さんは「臨床工学技士」(Clinical Engineer) という職業をご存知でしょうか？病院で働く医療従事者のひとりに、患者さんのために医療機器を操作すること、その医療機器が問題なく動くように整備することで治療をサポートする臨床工学技士がいます。その中でも、呼吸器に問題を抱える患者さんの治療を専門に行うのが「呼吸療法」です。今回は、臨床工学技士の呼吸療法についてご紹介します。

呼吸療法に関する代表的な医療機器に人工呼吸器があります。病院で積極的な治療に使用する急性期用と家庭で使用する在宅用があり、更に挿管チューブを喉に通して行うものや、気管を切開しカニューレを入れるもの、マスクで顔を覆い機械の力で肺に空気を送り込むものがあります。

人の呼吸は様々な要因によって容易に変化します。熱があるとき、痛みを感じているとき、運動しているとき、わざと呼吸のスピードを変えたり止めることもできますね。

これは心臓や腎臓など他の臓器にはできないことです。

人工呼吸器を用いて安全・快適に治療するには患者さんの体格や病状に合わせた設定や管理と適切な整備が必要となります。

想像してみてください。自分がストローを咥えて呼吸をしているとして、呼吸のタイミングが合わなかったらどうでしょう。

そのために臨床工学技士は呼吸状態の評価と人工呼吸器のデータ解析を行い現在の設定が適切なのかを評価しています。

この役割を果たすために、解剖学や呼吸生理などの医学的知識と物理や電子工学などの工学的知識を併せ持ち、人工呼吸器の動き方や内部構造、機能などを習得した上で医師・看護師とチームで患者さんやご家族により質の高い治療のサポートをしています。



また、呼吸療法に関する知識・技術を活かし、患者さんやご家族、医師や看護師など医療従事者への教育や提案も行います。

このように、臨床工学技士は、呼吸療法チームの一員として、患者さんの命を支える重要な役割を担っています。

【臨床工学技士 加藤 優典】

